



身近な自然知って守ろう

丹波篠山でパネル展 高校生の淡水魚60匹も

丹波篠山市で環境保護活動を展開する団体などが取り組みを紹介するパネル展「みんなで知ろう！守ろう！丹波篠山の環境」(市主催)が市民センターで開かれている。県立篠山東雲高校からは自然科学部が地元で採取した淡水魚を水槽で展示。生徒らは「身近な自然に触れる機会に」とPRしている。

(中野真一) 水槽は4基で8種の約60匹を展示。篠山川や武庫川水系で生徒が採取した。貴重な生物とされるミナミメダカやアブラボテなどをはじめ、オイカワやモツゴなどが泳ぐ様子を観察することが出来る。

生徒たちが展示している淡水魚の水槽(丹波篠山市民センター1で)

パネルでは、校内の自然

読売新聞
2022年1月13日

観察池で小学生らを対象に開いている生きもの観察会のほか、外来生物のウシガエルの駆除と有効活用に取り組んでいることなどを紹介している。

1年 さん(16)は

「身近な魚だけれど、じっくりと観察できる機会は少ないと思う。水槽の掃除は念入りにやっています」。

1年 さん(16)も

「自然科学部に入るまで生きものを触れなかった。今はとてもかわいい」と話した。

20日まで。入場無料。問い合わせは市農村環境課(079・552・5013)へ。